

安芸高田市で咲き誇れ 第2期地域おこし協力隊員



市長コラム 第93回



子育て支援の課題と効果

戦後、出生数が急増した頃、日本は貧困や感染症などで、家庭での子育てが困難な時代になり、救済措置として保育所・乳幼児園が設置された経緯があります。

高度成長期には、女性の労働力需要が増大し、保育所・乳幼児園の必要性が高まりました。低成長期時代の現在でも、住宅・教育費等の負担増により、共働きが多く、家庭での保育時間が短くなり、保育所・乳幼児園の充実が求められています。

子育てには、「親が子供を育てる」「子供が自身で育て合う」「親自身が子供に育てられる」という三つの側面があります。特にこれからは、子供たちが自ら育て合っているという視点が大切で、そしてこれからは、「子供を育てることを通して、子供も育ち親も育つ」と親同士が結びついて地域の「コミュニティ」を豊かにしてゆくことだと思えます。

以前は地縁・血縁に支えられた伝統的な地域のつながりが残っており、地域の文化や伝統芸能の担い手が存在していましたが、しかし現在、生活の個人化が進み、働く人々の姿が地域で見えなくなり、いまや家庭そのものまで空洞化の危機にさらされています。何よりも地域の中に若者の姿が見えず、

一人で楽しめる娯楽の普及により、子供同士の遊びも成り立たない状況があり、地域で集まって遊ぶ子供の集団を見かけなくなりました。

子供の集団づくりを進めることは、相互の安全を守り合い、互いに学び合い、育ち合い、鍛え合うことにつながり、地域づくりに欠かせない要素になると思えます。子育てを家庭だけの問題とせず、地域との関わりを向け、子供を取り巻く人間関係の多様性(仲間関係・異年齢集団・若者青年・家族)・地域活動(町内会・年中行事)・地域文化の継承(伝統文化・芸能・スポーツ・体験活動)、専門家による支援(医師・保健師・教師・行政職員)等の地域の子育て力を活用する事が必要です。さらには、子供と若者世代との関わりは子供達の活性化につながり、親にとっても若者の姿に育ちゆく我が子の明日の姿が見え、子育ての指針となります。成長過程の若者は完成された大人とは異なり、子供達の生きた手本としての魅力があります。

地域づくりには、子供・若者・大人・高齢者をつなぐ人と人との新しいネットワークづくりが不可欠であり、「つながり・ささえあい」の創造こそが地域復活の力ぎとなります。

安芸高田市では、子育て支援を人口減対策・若者定住に不可欠な課題として捉え、三人目の子供から保育料を無料としています。県内の市町に先駆けて保育料の無料化に向けた検討をする事としています。財政、保育士の確保等の課題がありますが、現行の保育体制を「ファミリー・サポート・センター事業、子供の一時預り事業等、行政は基より、地域の皆様の総合力を結集して、考えていきたいと思っています。



みやこし あきら
宮岸 章 (40歳)
木の駅プロジェクト事業担当

部署 産業振興部 農林水産課
安芸高田市のまちな印象

今も進めているバイオマスに関わる仕事のご縁で、「木の駅プロジェクト」に参加することとなりました。入隊前より知っていた方を中心に多くの人々に温かく迎えていただき、至れり尽くせりの毎日に感謝しております。

好きなテレビドラマ

大河ドラマ「真田丸」。後半では、安芸高田市ゆかりの毛利家との接点が出てくるのではと、ストーリーを心待ちにしています。

今後の目標や意気込みを一言

「志あるところに道はあり」。まずは地元の方々と酒を交わしながら、夢(志)を語り合いたいです。

部署 産業振興部 地域営農課
安芸高田市のまちな印象

緑。山と森に囲まれた緑豊かな町という印象があります。祖母の出生地でもあり、少しずつ見て回りたいと思っています。

趣味・特技

音楽鑑賞(ライブ)、読書、散歩、ダイビング、空を観ること。

今後の目標や意気込みを一言

いろいろな方々との出会いを通じ、安芸高田市のことをもっと知りたいです。その上で何が必要か、地域の資源を活用していければと考えています。地域の方の縁の下の力持ちとなれるよう頑張ります。目指せ、竹仙人!



わたべ たらう
渡部 太郎 (49歳)
資源循環と農産物の高付加価値化推進事業担当



たなか けん
田中 賢 (23歳)
移住・交流定住促進事業担当

部署 企画振興部 政策企画課
安芸高田市のまちな印象

交通面・生活面において予想以上に便利なので、越してきたばかりの私はホッとしています。地域でお会いした方は、皆さん温かい方ばかりで想像以上に嬉しく感じています。

学生時代の思い出

学生時代は芸術学部で金属彫刻を学んでいたため、毎日自分の作品と向き合う日々でした。

今後の目標や意気込みを一言

実際の地域の状況と自分のアイデアとのかみ合いに試行錯誤している状況です。まずは、地域のみなさんとコミュニケーションをとる中で協働していきたいと思っています。

元就と安芸高田

どうも！地域おこし協力隊観光振興担当の中溝です。安芸高田市に来て一年が過ぎました。さてさて、今回はどんなことを書いてらよいのやら…。前回僕は、安芸高田市に、宝の原石が沢山あることをお話ししました。

絢爛豪華で躍動感に満ちた神楽が代表例です。

ですが、僕が今着目しているのは、「毛利元就」です。なぜ元就かといいますと、戦国最強の知将と称される元就が、一生涯、安芸高田市に住み続けたという事実は、ほかの地域で絶対真似できない、オンリーワンの素材、宝の原石だからです。手始めに僕は、吉田史跡ガイド協会に入りました。郡山城に来たお客様を元就ワールドにいざなう最前線に立つためです。

ガイドをして、確信したのですが、きっかけさえあれば、毛利元就のことをもっと知りたい、感じたいと思っている人が、かなり

地域おこし協力隊員リレーコラム vol.9 中溝国久さん(産業振興部商工観光課)



の数で潜在的に存在しているということなんです。ですから、毛利元就という「素材」をしっかりと磨き込むことで、神楽に匹敵する地域の宝が、できあがると確信しています。

外に向けての元就をPRしつつ、今年は、安芸高田市に住んでいる方にも、愛着を持ってもらうように活動したいと思っています。また地域全体が遊び場になるような企画も任期中にしたいです。

余談ですが、地域おこし協力隊のフェイスブックの管理と編集長も実はやっています。日々の隊員の活動や安芸高田市の魅力を再発見できるページ作りを目指していますので、こちらもぜひご最層にしてください。



毛利元就公墓所の前で観光ガイドをする中溝隊員

